

クラス	Q302	担当教員	大饗広之
テーマ	現代青年の心理　&　心理療法的アプローチ		
著書・論文 研究課題等	◆ 「豹変する心」の減少額―精神科臨床の現場から―（勁草書房、2009） ◆ 「なぜ自殺は減らないのか―精神病理学からのアプローチ」（勁草書房、2013） ◆ 「解離の病理―自己・世界・時代（共著）」（岩崎学術出版、2012）		
ゼミナール概要			
キーワード：青年期、アイデンティティー、解離、トラウマ、心理療法			
<p>思春期・青年期の心は今どうなっているのか、いったい心理療法はそこにどうやってアプローチするのかといったことがこのゼミでのテーマになります。ただいくら難しいことを考えても「自分のところ」に向かう態度がなければ心理療法をおこなうもできないし、他人のころについて知ることでもできません。このゼミのメンバーには；</p> <p>①少なくとも自分の内面に興味があり、自分自身の変化をめざすこと</p> <p>②自分の興味あるテーマをゼミ内で開示し、ディスカッションを通じて深めていくこと</p> <p>③ゼミ内での人間関係、そこで耳にした個人的情報については秘密を保持すること</p> <p style="text-align: right;">などが求められます。</p> <p>ゼミの大まかな運営方針は次の通りです；</p> <p>①自分の選択したテーマにそって、先行研究（文献、書籍など）を読み込んで発表する</p> <p style="text-align: center;">→テーマにそって、ディスカッションを繰り返す</p> <p>②面接方法を学ぶために、実際に身近な誰かに模擬カウンセリングを行って逐語録を持ち寄り、ディスカッション（公開スーパーヴィジョン）をおこなう</p> <p>③できれば自らもカウンセリングの被験者を経験する</p> <p style="text-align: right;">などなど</p> <p>大事なことは自分のテーマを煮詰めていくこと、そしてディスカッションの場を積極的に活用することです。ゼミという閉鎖的（中間的）な集団状況はその気になれば自分を知るための場としてはもってこいです。心理療法は「三つ子の魂百まで」という固定観念をやぶっていく営みですが、そのためにも多少の心理的抵抗も覚悟しなければならないということです。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>心理学科には入ったけれど自分のころについてはサッパリわからなかった、自分はぜんぜん変わらなかったという学生がけっこう多いようですが、まあそれでは時間と金をドブに捨てているようなもの。自分のころを知るには「鏡としての他者」が必要であり、そのためのゼミを利用すればいいということです。上にも書いたとおり、このゼミは討論中心で、学生の自主性に委ねられるところが大きいので、少なくともいろんなことに疑問を抱き、積極的に議論に参加していく姿勢が最低の条件です。そして自分の抱いた疑問に執念深くコミットしていけばけっこうおもしろくなるものです。</p> <p>それから私自身、今とりくんでいるのがイマジナリー・コンパニオン、解離、アスペルガー症候群、あるいは青年の心の多元化、生きづらさといったテーマなので、興味のある方はどうぞ</p>			